

《地域福祉部》

◎浜田（英）委員長 次に、地域福祉部について行います。

初めに、部長の総括説明を求めます。なお、部長に対する質疑は、各課長に対する質疑とあわせて行いたいと思いますので、御了承願います。

（総括説明）

◎浜田（英）委員長 続いて、所管課の説明を求めます。

〈地域福祉政策課〉

◎浜田（英）委員長 初めに、地域福祉政策課について行います。

（執行部の説明）

◎浜田（英）委員長 質疑を行います。

◎浜田（豪）委員 あったかふれあいセンター事業費についてですが、補助事業費が1,700万円余ったこととあわせて平成29年度で43カ所との御説明がありました。平成28年度は44カ所あったと思うんですけど、その1カ所減はどういった内容でしょうか。

◎飯島地域福祉政策課長 まず、不用が生じている理由からでございますけれども、人件費等が予定よりも少なかったところがございます。その要因といたしましては、専門的なスタッフを雇用しようと思っておりましたところ、なかなか専門職の方が見つからず、現在のスタッフがスキルアップ研修などを受けて対応する状態になってございまして、そういったところの減が要因と考えてございます。それから、もう1点御質問いただきました拠点の数が減っている件でございます。安田町でございますけれども、1つ拠点からサテライトの機能に移行しました。そういった形で拠点数としては減になっておりますけれども、サテライト数で見ますと、全体としては増になってございます。

◎浜田（豪）委員 香南市にはあったかふれあいセンターがないので、私が香南市で接する人なんかと県の施策についていろいろ話をするとき、余りぴんときていない人がほとんどです。今後、今やっている市町村以外にふえていく見込みはあるのでしょうか。

◎飯島地域福祉政策課長 現在、足元にあったかふれあいセンターがない市町村といたしましては、高知市と香南市、それから梶原町の3つがございます。これらにつきましては、あったかふれあいセンターを検討していると聞いておるところもございますけれども、特にあったかふれあいセンターという手段ではなく別の類似する事業によりまして、例えば集いの機能ですとか、介護予防のサービスを提供しているということで、特にあったかふれあいセンターは設置していないものの、そういった別の代替する機能でサービスを提供している状況と承知しております。

◎浜田（豪）委員 逆に言うと、あったかふれあいセンターがないことがありがたいというか、ないぐらい頑張っている、まだ人がおると個人的には感じています。これからさらにあったかふれあいセンターへのニーズが高まる中で、専門スタッフがいなかったことで

予算が余っている。栄養士とか看護師など、いろいろな専門職の派遣要請はあると思うんですけど、そういう要請に対応するのがなかなか難しい中で、どうやってやっていくのか。先ほど課長がおっしゃった、例えば既存のスタッフが研修を受けて対応するなど大変だと思いますが、非常に大切な施設だと思いますので、いろいろ頑張っていただきたいと思います。

◎大野委員 関連してですけれど、あったかふれあいセンターの仕組みは、地域的には福祉のいろいろな谷間にある人なんかをケアしていただける施設で、物すごくありがたい部分があって、障害者や高齢者もそうやし、子供の保育事業もそうです。本当に福祉の部分、底辺の部分で行っていただける、すごくありがたい事業やと感じております。前に1回質問で、国に交付金化をお願いしたらどうかという話もさせていただきました。今、実際、現場では賃金の問題が物すごく出ていまして、補助金として入ってはくるんですけど、補助金はマックスでもらえるわけではないんで、市町村としてもほかの職員とのバランスを見ながら支出しゆう状況もあつたりします。あと、固定給になってしまうと昇給もないようなこともあつたりして、やっぱりどこかで財源的な支援がないと、これから先は厳しいかなと思うんです。やっぱり県内というか、全国的に広げていただきたい仕組みだと思うんで、そこら辺を何か検討していただけたらありがたいと思っていますけれども、どうでしょうか。

◎飯島地域福祉政策課長 職員の労働条件につきましては、人件費単価等も含めまして、委託先の社会福祉協議会ですとかNPO法人等の給料表に基づいている場合が多いと承知しております。正職員の方はそういった形になっている場合が多く、また非正規の職員は各市町村の臨時職員の単価に合わせていると聞いているところもございます。ただ、そういったばらつきはあるんですけども、場所によっては単価が低いにもかかわらず、うまく人材を確保している例などもございます。そうしたかなりキーとなる方がいらっちゃって、その方が一本釣りのような形で、かなり汗をかいていただいているようなこともございます。少し属人的なところもあるかもしれませんが、そのようにうまくスタッフを確保している例もございますので、ほかのところにも展開できるような形で情報共有をさせていただきたいと思っております。あとは県内だけではなく全国的にもという御指摘がございましたが、現在、知事会で、先進的な事例を集めて横展開をしようという取り組みがなされております。そうした中でも、高知県のあったかふれあいセンターは、事例として登録のエントリーをしているところでもございますので、また他県の状況もお伺いしながら、うまくPRにつなげていきたいと考えております。

◎大野委員 それともう1点ですが、過疎債は施設の改修とかでも使えるのでしょうか。新設だけでしょうか。

◎飯島地域福祉政策課長 運営費、ソフトの関係も使っていただける形になっております。

◎塚地委員 関連して、今後、あったかふれあいセンターを県内でも拡大していくことになると思うんですけど、専門性を持った人たちが、きちんと責任を持った対応ができる施設になるのかは、一定スタート時からの懸案事項だったわけです。それで今回、予算は構えてくださって専門スタッフを入れようとしているんですけども、そのスタッフが見つからない。やっぱりこの部分を乗り越えないと今後も広がっていかないと思うんですけど、そこに対する手だてはどのような状況ですか。

◎飯島地域福祉政策課長 先ほど申し上げたように、完全な専門ではないですけども、専門的な知識がない方についてもスキルアップを図っていただく研修も実施していきたいと思っております。あと、それぞれの地域で専門職を抱えることがなかなか難しい事例も考えられます。そういった場合につきましては、例えば県のほうでリハビリ職の専門家を派遣する形で調整させていただいたりもしております。スタッフとして抱えるのは難しいところでも、県のほうで派遣の支援をさせていただくことで、専門的な方に関与していただける仕組みにしていきたいと考えております。

◎塚地委員 先ほどの大野委員への御答弁の中で、リーダー的な人が上手に人を配置して運用しているところを先進事例として語られたと思うんですけど、今から全国展開の横串にするときは、そういうところをベースにするのではなくて、どういう人たちのどういう場所でも展開できることを土台に置いて横串展開しないと、またアンバランスになりますし、問題も起きてくる可能性があります。横串にするときに、底辺を厚くする、土台を厚くするというか、ぜひそういう考え方で展開を検討していただきたいです。良い事例というときに、そこは大事にしてもらいたい。これは要請で結構でございます。よろしくお願いいたします。

◎金岡委員 ちょっと関連するかもしれませんが、それに似たような組織として、私のところに、とんからりんの家があります。それをずっと見てみますと、ほぼ完全ボランティアでやっている状況です。それを支援する形はほとんどないです。別に年齢をどうこう言うわけじゃないですけども、できる方がお世話をする形で85歳を超える方がお世話をしている状況が続いています。これからもどんどん年齢は上がっていきます。それで果たしていいんだろうか、いつまで続くんだろうかという思いがあります。設立されて一、二年じゃなく、随分長くやっているんです。そこに何か支援をするとか、あるいは手伝って続けられる方向に持っていくことができないものか。いかがでしょうか。

◎門田地域福祉部長 詳細な事情を把握しているわけではないんですけども、とんからりんの家自体、あったかふれあいセンターのモデルとして最初に視察もさせていただきました。とんからりんの家につきましては、役場がやるとか委託するものではなく、ボランティアでやっていきたいということだったと思われませんが、今はあったかふれあいセンターになっているようです。

◎**金岡委員** あったかふれあいセンターでやられておるといふか、サテライトもいっぱいあってやっておるんですけども、何を言いたいかといふと、多分、後へ続く人材が育っていないのではなかろうかと思ふます。それはどうしてかなといふところもあります。それをやらないと、先ほど申し上げたように一生懸命介護されている方、あるいはお世話をしている方が85歳とか、90歳にまでなったら、これは無理だろうと思ふわけです。その状況がもう間近に来ておりますから、次の人材を育てていかなければならぬし、そのために何をしたらいいか、見ていらっしゃるんでしたら、もっと余計に考えていかなければならぬんじゃないかと思ふますけれども、どうでしょう。

◎**飯島地域福祉政策課長** 人材確保の点は、いろいろなところからも非常に課題だといふお声を聞いております。スタッフとして入っていただいている方も、やはり高齢化していると伺っておりまして、先ほど属人的な一本釣りみたいなお話もさせていただいたんですが、地域によっては子育て世代ですとか、団塊の世代、まだお元気な高齢の方に少し声を広げていく形でスタッフを確保していこうといふ動きもあるように聞いております。地域地域で個別の事情はあろうかと思ふますけれども、また地域間で情報共有などを促進させていただくことで、ここはこういうことをやっているんだなといふヒントといふか、何か使えるものを共有していただいたり、そこから県としてさらに支援が必要だといふお声があるところについては、また検討していきたいと思ふております。

◎**金岡委員** とにかく、次の世代あるいは後に続く方が出てくる形をとっていただけるようによろしくお願ひしたいと思ふます。

◎**土居委員** あったかふれあいセンターに限ったことではないんですけど、福祉介護人材がこれからまたどんどん不足していくことが予測されていく中で、何とか確保するためにいろいろな事業が展開されています。当然長期的なスパンで働き方改革的な視点が必要で、先ほど部長もおっしゃってましたように、潜在的な介護士の掘り起こしや事業の切り出しとのマッチングが必要だといふことは理解できます。それは福祉人材センターが中心かもしれないですけど、実際に取り組んでみて、現場での対応がどれだけ進んでいるのか。その点について、県はどう認識、把握をしているかを教えていただきたいです。

◎**飯島地域福祉政策課長** 福祉人材センターのほかにも、先ほど少し申し上げましたが、例えば認証評価制度といふことで、働きやすい職場づくりをしている事業所、法人について県として認証マークを出すことで、働きやすい環境であることをPRしていただく取り組みもさせていただいています。そういった切り出しですとか、認証評価制度に取り組んでいただいた事業所の方のお声を聞きますと、自分のところでは当然のようにやっていたんですけども、実はそんなに多くの事業所がそこまではできていないといふ事情もわかったと。自分たちがそういったきちんとした取り組みをやっていることを外にPRすることが、人材確保にもつながると認識していただけたと感じております。そういった認識が

どんどん広がっていけば、こういうことをやれば、ほかの事業所よりも働きやすい環境をつくっていることを就職希望者にも周知でき、人手を確保していくにも有利だと知っていただける。しっかり人が確保できれば余裕が出てまいりますので、少し働きやすくなるといった好循環を生み出す仕組みづくりに引き続き取り組んでいきたいと感じています。

◎土居委員 ぜひ好循環を生み出していけるように、また頑張っていたいただきたいと思いません。あと1点、処遇改善加算の事業費補助金もあるんですけど、現時点で各事業所はどのくらいの割合で加算を取得されているのか。

◎飯島地域福祉政策課長 御存じのとおり、処遇改善加算は5段階ございますけれども、一番高い「加算Ⅰ」をとっておりますのが県内では56%、それから「加算Ⅱ」をとっておりますのが15%になっておりまして、ⅠからⅤのいずれかをとっているところは84%という状況になってございます。

◎土居委員 ちなみに、まだ取得されていない事業所等に対して、引き続き県として取得を促していく取り組みは深めていくのでしょうか。

◎飯島地域福祉政策課長 加算取得できるところには、やはりしっかりととっていただきたいと考えています。就業体系なんかをきちんと整える要件がございまして、そういった事務が発生するところもございまして、そうしたところについては、給与体系をつくるといった事務的のところを補助する助成も用意してございますので、そういったものを活用していただきながら、積極的に加算をとっていただけるように県としても促してまいりたいと考えております。

◎久保委員 さっきの土居委員と少しかぶりますけれども、福祉介護人材のことについて9月議会で質問させていただいて、実際に介護職員とか介護事業者とお話をする中で、もちろん賃金が安いですが、肉体的に重労働だとかありますが、結構比率が高かったのは人間関係ということも教えていただきました。いろんな方とお話する中で、介護人材不足を解消するときが一番有効な手だてはモチベーションということが聞こえてきました。そういう中で、83ページにもありますけれども、キャリアパスのシステムをきちんとつくっていくことによって、こういうステップに行けば次へつながっていくことを見える化したらモチベーションも湧いてくるということで御質問もさせていただきました。この83ページの中にあるように、いろいろな人材確保の事業をやっています。福祉・介護人材確保事業費の上から7番目にあります介護事業所職場環境分析等委託料は、予算としては68万円くらいですけども、ここらあたりがすごく大切なものではないかと思っています。これは平成29年度に調査されているんですけども、この中身についてお聞きしたいです。

◎飯島地域福祉政策課長 委員からも先日の質疑の中で問題提起をしていただきました認証評価制度がございましたけれども、実はこの平成29年の介護事業所職場環境分析等委託料が、この認証評価制度の骨格をつくるための調査研究費でございまして、現在は、それ

が認証評価制度の実施につながっているものでございます。

◎久保委員 ということは、その事業所の中で、この認証評価以外の、どういうことによつて人材不足だとか、離職していただくとか、もっと継続していただくかの調査はやられていないのでしょうか。

◎飯島地域福祉政策課長 具体的な名前はちょっと失念しておりますけれども、県の事業所に対しまして、どういったところが課題かといった調査を3年に1回、定期的に行わせていただいております。

◎井上地域福祉部副部長 補足させていただきます。全国的な組織である公益財団法人介護労働安定センターが介護労働実態調査を毎年やっています。それで毎年データが出てくるんですけども、本県の場合ですとサンプル数が少ないこともございまして、介護保険計画改定前にもう少し幅広く調べていこうということで、先ほど課長が申しあげましたように、3年に1回、県費を使って調査をさせていただいている状況です。

◎久保委員 全国的な調査はインターネットなんかを見てもよく出ているんです。ただ、本県の場合、まだまだそれに追いついていないと思うんです。この介護や福祉の業界って、事業所自体がまだまだ新しいじゃないですか。かつ、本県の場合は、まだまだ新しいと思うんで、さっき課長がおっしゃった課題だとかを3年に1回なり調べているのであれば、それをもうちょっときちんと説明していただきたい。また、そこへ手を打っていくために、この認証だとか、処遇改善なんかをやられていると思いますけれども、それを教えていただきたいです。

◎飯島地域福祉政策課長 来年実施予定でございますので、またその結果も御説明に伺わせていただきたいと思います。しっかりと政策にも結びつけていきたいと考えております。

◎久保委員 直近の資料を回してください。よろしくをお願いします。

◎飯島地域福祉政策課長 了解しました。

◎浜田（英）委員長 僕の持論ですが、あつたかふれあいセンターへ看護人材を積極的に派遣しなくちゃいかんと思う。鎌倉部長からも一定前向きな答弁をいただいております。これから高知版の地域包括ケアを推進していく中であつて、現在、あつたかふれあいセンターが、そのセンター的な役割を果たしているところは実態としてあるんですか。

◎飯島地域福祉政策課長 看護師につきましては、実は昨年ぐらいから力を入れ始めているところがございますけれども、そのほかりハビリテーションの関係につきましては、かなりあつたかふれあいセンターを活用していただいております。介護予防の事業などに取り組んでいただいております。拠点としての一定の機能は果たされていると思っております。高知版の地域包括ケア、それからネウボラといった観点からも、しっかりとつなぎですとか、関係者との連携の強化が必要になってまいりますので、引き続きそこについては取り組んでまいりたいと考えております。

◎浜田（英）委員長 もう1点、気象庁が臨時情報を出した際の市町村の対応は、12月末までに大体決めると言われておりますけれども、今、高知県内で障害者を含めた要配慮者の方々を避難させる福祉避難所がない町村はあるんですか。

◎門田地域福祉部長 ない町村はないです。全部ありますけれども、充足しているかというところ、そこはまだまだというところがございますし、福祉避難所で全てを賄うのはとても無理でございますので、一般の避難所に福祉避難所的な機能を持っていただく取り組みも進めているところでございます。

◎浜田（英）委員長 実際に有事となれば、一般の方も要配慮者もごちゃ混ぜになると思うんです。そこら辺をどう配慮していくかも、これからの一つの課題だと思いますので、頑張ってくださいと思います。

質疑を終わります。

以上で、地域福祉政策課を終わります。

暫時、休憩いたします。再開は3時25分といたします。

（休憩 15時11分～15時25分）

◎浜田（英）委員長 休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

〈高齢者福祉課〉

◎浜田（英）委員長 次に、高齢者福祉課について行います。

（執行部の説明）

◎浜田（英）委員長 質疑をお願いします。

◎塚地委員 86ページで御説明いただいた中山間地域介護サービス確保対策事業費補助金ですけれども、これは県単事業ですか。

◎戸田高齢者福祉課長 県単事業でございます。

◎塚地委員 結構、画期的な取り組みだと思っております。介護保険料を払っても必要なサービスが提供されないという、あってはならないことを何とかしようというところですが、これは、そこそこ不用額が出ているようですけれど、市町村の要望は少ない状況ですか。

◎戸田高齢者福祉課長 2月補正をする段階で一応状況調査をしたところ、全て執行する見込みで予算は確保しておりましたけれども、実際には1月、2月、3月の実績が上がってこなかったもので、不用が生じているものでございます。

◎塚地委員 今までこの補助事業を受けてやっていたけれども、撤退した事業所はあるんですか。

◎戸田高齢者福祉課長 事業所の事情によって、幾つかは撤退したとお聞きしております。

◎塚地委員 それで、そのサービスを受けられていた人が受けられなくなった状況ではないですか。

◎戸田高齢者福祉課長 それは、ほかの事業所が対応したということで、特にサービスを受けられなくなったとは聞いておりません。

◎塚地委員 わかりました。何とか、事業所の皆さんにヘルプサービスもやっていただかないといけませんので、不用額が出ているからといって、あんまり厳しい状況にしないように、ぜひお願いしておきたいと思います。

◎明神委員 認知症高齢者の見守りネットワーク推進会を中心とした見守り体制づくりは、現在、県内の何市町村でできていますか。

◎戸田高齢者福祉課長 見守りネットワーク体制が整備できているところは、13市町村と1広域連合となっております。

◎明神委員 1広域連合は何市町村の広域連合ですか。

◎戸田高齢者福祉課長 中芸広域連合で、5町村でございます。

◎浜田（英）委員長 質疑を終わります。

以上で、高齢者福祉課を終わります。

〈障害福祉課〉

◎浜田（英）委員長 次に、障害福祉課について行います。

（執行部の説明）

◎浜田（英）委員長 質疑を行います。

◎塚地委員 療育福祉センターの懸案事項といいますか、相談をしたい保護者の皆さんが随分待たんといかん状況の改善に随分と努力してくださっていると思うんですけど、現在はどのような状況か。

◎西野障害福祉課長 受診待ちの状況につきましては、本年9月末時点で210名ほどの方にお待ちいただいていると確認しております。待ちの期間としましては、若干短くはなったようではございますが、1年程度という状態です。ただ、ほかの医療機関では診療待ちという形で対応されていない医療機関が多々ございますので、療育福祉センターで実際に順番が来て受診をされますかという連絡をしたときには、既にほかの医療機関にかかっている方などもいらっしゃると思っております。県としましては、医療だけではなく、診療待ちの間に、身近な子育て支援の場でいかに支援をするかに重点を置いて、保護者の不安を解消していきたいと考えております。

◎塚地委員 抜本的に改善しようと思うと、まだ医師が不足している状態ですか。

◎西野障害福祉課長 医師につきましては、診断を希望される方に対して診断待ちが生じていることは、不足していると言わざるを得ない状態かとは思いますが、これは全国的にも同じような状態とお聞きしております。いかに医療だけではなく、福祉のほうで支援を

しながら早期療育をしていくかという、医療と福祉の両輪で対応していく必要があると考えております。

◎塚地委員 健診で見つかって、それから受診するまでの間の不安解消ということで随分県も努力してくださっていると思うんですけど、やっぱり専門の先生に診てもらいたいという要求はどうしても出てくるものでもあります。いろいろな施策を講じつつも、全国で不足している医師の養成も含めて、ぜひ御努力いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

◎土居委員 関連で、発達障害者支援の推進のところですが、発達障害児・者及び、家族の総合的な支援に力を入れておられると御説明がありました。平成 28 年度の決算特別委員会の意見に対する措置のところでも、支援の技術力向上を図るための研修会や学習会を開催したと説明がありました。その中で、子供の支援にかかわる市町村保健師や保育所等の保育士を対象にと説明があったんですけど、一つは、それは当然大事なことであり同時に、これらの児童とかかわる保育所から、また小学校、中学校へと進んでいく中で、学校の先生方は、家族と同様にこの子たちとのかかわりの時間が相当長くなると思います。こういった専門職への研修を小学校などの学校現場へおろしていくというか、そういう取り組み的なものは、県としてやられているんでしょうか。

◎西野障害福祉課長 障害福祉課では、教育委員会と連携をさせていただきながら、専門的な支援力などを高めていっていただくようには考えております。ただ、各小学校、中学校には、教育委員会のほうで、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置により支援策を高めているとお聞きしておりますので、今後、そちらとの連携をいかに図っていくかが課題であると考えております。

◎土居委員 スクールソーシャルワーカーもそうですけれど、発達障害の児童に対するそういう方々の対応力はどうですか。

◎西野障害福祉課長 教育委員会が実施しているスクールカウンセラー向けの研修の中で、療育福祉センターが講師として発達障害の支援についての研修を行っています。

◎大野委員 施設整備の事業ですけれども、昨年度で何件ぐらいですか。

◎西野障害福祉課長 平成 29 年度は、高知市の児童発達支援センターの新築 1 件と、幡多地域のグループホームの高台移転 1 件、あと防犯対策といたしまして 15 施設、事業所に防犯カメラなどの施設整備の補助を行いました。

◎大野委員 これは、障害福祉計画ができて、市町村の積み上げで事業化されていくと思うんですけども、多分国の財政的なところもあって、なかなか進んでいないんじゃないかなと思います。その辺はどんな感じでしょうか。

◎西野障害福祉課長 施設整備につきましては、各市町村で障害福祉計画の中で必要な事業所とかの見込み量はつくっております。ただ、事業所の施設整備の計画であるとか、資

金、体力面、タイミングもございまして、障害福祉課では各事業所から施設整備の計画をお聞きして、その中から優先順位をつけて、国の補助金に申請している状況です。

◎大野委員 補助申請したら、大体、満額とれる感じですか。

◎西野障害福祉課長 残念ながら、国の概算要求でも、障害福祉の施設整備の予算は毎年大きな額ではございませんので、なかなか要望全てにお答えいただける状況ではございません。

◎大野委員 さっきのあったかふれあいセンターの話でもそうですが、そこら辺は国のほうにも、ぜひともお願いしたいと思います。

◎浜田（英）委員長 クリストファー・ギルバーグ先生は世界的なオーソリティーですから、いつでも高知へ来てもらえるわけではないでしょうけれども、逆に高知からヨーテボリ大学へ派遣された方は、何人かいらっしゃるんですか。

◎西野障害福祉課長 ギルバーグセンターの研究員が年に2回、ヨーテボリ大学のカンファレンスに行っております。

◎浜田（英）委員長 以前、ギルバーグセンターは心の教育センターかどこかになかったかね。センター機能は今どこにあるんですか。

◎西野障害福祉課長 ギルバーグセンターのセンター機能は、平成24年の開設時から療育福祉センターの中に設置しております。

◎浜田（英）委員長 わかりました。質疑を終わります。

以上で、障害福祉課を終わります。

〈障害保健支援課〉

◎浜田（英）委員長 次に、障害保健支援課について行います。

（執行部の説明）

◎浜田（英）委員長 質疑を行います。

高知医療センターの精神科病床のことについて、健康政策部の家保副部長に、あそこの医師確保についてはアンタッチャブルなのか、それともそれなりに御苦労されているかと聞いたら、一生懸命やっていますということでした。今、負担金がここに出っていますが、地域福祉部としては健康政策部とどのような連携を持って、医師確保に努めておりますか。

◎門田地域福祉部長 あそこの精神病棟につきましては、基本的には地域福祉部が担当しております。ただ、医師確保ということで、当然、家保副部長にはしっかり御協力いただいております。高知大学などへも一緒にお伺いして御説明し、要請もしてきたところでございます。平成30年1月から新しくおいでた教授に対しても、家保副部長とともに、学長も含めてお願いを申し上げて、この4月からの精神病棟の再開につながったところでございます。

◎浜田（英）委員長 家保副部長とは役割分担をされているんですか。

◎**門田地域福祉部長** 役割分担というよりは、やはり一緒にとということです。家保副部長は医師の世界には詳しいので、そちらの事情などは私どもに情報をいただきながら、一緒にやっている形でございます。

◎**塚地委員** 高知いのちの電話活動強化支援事業費補助金ですけれど、随分とボランティアの皆さんが頑張ってくださっていて、自殺者の数も少なくなっている状況です。ちょっと不用額もあったりする状況ですけれど、ボランティアの方々が不足している状況ですか。

◎**山崎障害保健支援課長** まず、昨年度不用が出ましたのは、全国大会が中止になったことによる旅費の減少ですとか、あと、実際に電話相談を受けてくださっている方々にフォローアップ研修をしておるわけですが、そのやり方を工夫するとか、あるいは会議室の使用料がかからないところを利用するといったような工夫をしていただきまして、その結果、今回の不用額が発生したと考えております。それと、電話相談員につきましては段階的にといいですか、徐々に減ってきておるのが実態でございます。実際にやめられる方は少ないですけれども、どうしても女性の方、また、年齢的にも多少高目の方が多いことから、御家庭の事情で介護といったことに手をとられるといったことがございまして、休止される方がふえていることが大きな原因と思っております。

◎**塚地委員** 養成も頑張ってくださっていると思います。そこで一定補充もしていないといけないと思うんですけれど、そこへの参加状況はどんなもんですか。

◎**山崎障害保健支援課長** 養成状況ですけれども、毎年、講座を開講いたしまして、相談員の方を養成しています。実は近年、講座への参加者も減少気味でございまして、平成28年度は14名、平成29年度は9名で、受講者数も減少傾向にあります。これにつきましては、私どものほうももっと多くの方に呼びかけられるようにPRの仕方も考えていきたいと思っております。

◎**塚地委員** 相談員への一定の報酬というか、それはどんな状況ですか。

◎**山崎障害保健支援課長** この相談員は完全なボランティアになっております。基本的に、こういう仕事はボランティア精神でやらないとできないという、高知いのちの電話協会の強いお考えもございまして、これについて、当方からの直接的な補助や支援はできていない状況でございます。

◎**塚地委員** そういうお気持ちで運営されているのでしょうか、こちらからはいろいろと言えないかもしれないですけど、厳しい家計の状況の中でいうと、持ち出しだけではなかなか長く続かないとも思います。そこは、その団体の皆さんともこれからの人材確保をどうするかについて協議をしていただいて、ぜひ確保できる条件整備みたいなのも御検討いただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

◎**大野委員** 職業訓練ですけれども、協力していただける企業数、あと募集の方法なんか

について教えていただきたいんですけど。

◎山崎障害保健支援課長 平成29年度の障害者の訓練の実施状況ですけれども、実践能力コースとして12コース実施しております。あと、障害をお持ちの方の学校を卒業する手前に訓練を行う早期訓練で2件、知識・技能訓練で7件、それから若者就労準備で7件実施させていただいております。この実施に当たり、実践能力につきましては、私どものほうで企業訪問をしておりますので、そういった中からいただいたお話でありますとか、あるいは一部、そういった開拓を委託しておりますので、そういった方からの情報提供等によりまして、実施をしているのが実際のところでございます。

◎大野委員 というのは、この間の障害者雇用の問題もあって、そういう協力をしてくれる企業が広がっていくことによって、また障害者の雇用についても裾野が広がっていくんじゃないかと思います。そういう職業訓練なんかも一つのきっかけにさせていただいたらありがたいと思いましたのでお伺いしたんです。どれくらいの企業に声かけをしているんですか。

◎山崎障害保健支援課長 受け入れたいという情報に対して、実際に行きたいという方のマッチングが重要ですので、今までは少し狭目にそういった情報を提供させていただいたところなんです。実際にはなかなか難しいかもしれませんが、最近は県内全体の事業所等にそういった情報を流させていただきまして、広くマッチングを図る取り組みをさせていただいております。

◎浜田（英）委員長 質疑を終わります。

以上で、障害保健支援課を終わります。

〈児童家庭課〉

◎浜田（英）委員長 次に、児童家庭課について行います。

（執行部の説明）

◎浜田（英）委員長 質疑を行います。

◎大野委員 子ども食堂支援事業の委託ですけど、これは国の補助事業ですか。

◎田村児童家庭課長 国の地域子供の未来応援交付金を使いまして、2分の1補助を受けて実施しております。

◎大野委員 国からの補助は、立ち上げのときだけの補助という感じになりますか。

◎田村児童家庭課長 国からの当初の要綱としては3年間という形でお聞きしていただきましたけれども、知事会などを通して国のほうに継続の要望をさせていただいております。事業の充実を図るため、ステップアップするような内容であれば、現在のところお認めいただいております。

◎門田地域福祉部長 捕捉しますと、国の補助は事業体そのものへの補助ではなくて、支援するコーディネーターの人件費等に充てるもので、県社協への補助でございます。実施

している団体へは、県単なり基金をもとにして補助している状況でございます。

◎大野委員 子ども食堂を広げていくという話があったんですけど、さっきの話じゃないですけど、あったかふれあいセンターを利用されたらどうかと思います。例えばあったかふれあいセンターのメニューの中に子ども食堂を入れたりして、財源的にも担保して広げていただけたらどうかと一つ思うのと、そこに対しては財源的なものが発生しますので、やっぱり国とかの支援もありながら、あったかふれあいセンターのメニューに入っていって広がっていくんじゃないかと思います。現在、結構あったかふれあいセンターの会場で実質的にやりゆうところもあるんです。集落活動センターと一緒に包括されちゆうところもありますので、そういうところも利用してやられるところが多いです。これを全県的に広げていこうと思うと、あったかふれあいセンターも利用したらどうかと思いますが、どうでしょうか。

◎門田地域福祉部長 おっしゃるとおりだと思いますので、あったかふれあいセンターでしっかり広げるような検討を進めてまいりたいと思います。

◎大野委員 ぜひお願いしたいと思います。

◎塚地委員 関連で、子ども食堂を開設していない市町村もあるんですか。

◎田村児童家庭課長 現在のところ、10市9町で実施されております。

◎塚地委員 市町村社協が結構頑張っていて、先ほどおっしゃったみたいにコーディネートしてくださっています。先ほどのお話のように、あったかふれあいセンターとのジョイントみたいな感じで今後広がる可能性、そういう計画的なものをお持ちになっている状況ではないですか。

◎田村児童家庭課長 県としましては、できるだけ多くの市町村で実施していただきたいと考えております。開設準備講座を平成29年度に5回開催しまして、100名ぐらいの方に参加していただいています。開設準備講座を経て子ども食堂を開設してくださったところが幾つかございまして、現在10カ所ぐらいにつながっております。そういった形で、開設準備講座で子ども食堂のよさとか、趣旨とかをお伝えしながら、子ども食堂の広がりを進めていきたいと思っております。

◎塚地委員 開設準備講座の開催場所はどこですか。

◎田村児童家庭課長 平成29年度の実績で申し上げますと、高知市、安芸市、四万十市、香南市、須崎市の5カ所になっております。

◎塚地委員 この間やってこられた方のお話を聞くと、とりわけ母子関係がなかなか難しい方々が母子ともにおいでくださって、そこで母子関係が改善するとか、単純に子供に焦点を当てたものではないところに結構効果が出ているというお話も伺って、すごく大事な事業だと思いますので、ぜひ広げていただけるように御努力をお願いしたい。それと、事業費補助金は若干の不用額が出ています。例えば、一生懸命頑張っていて、募金

が集まって、それなりに積み上げちゃうと、この事業費が受け取れないことがあるようです。事業を継続しようと思うと、それなりのお金を手持ちで持ちよきたいという意向もあるので、補助の要綱については、ぜひ利用者の御意見も聞いていただいて使い勝手のいいものにしていただきたいというお願いでございます。

◎**浜田（豪）委員** 関連で、子ども食堂でうまくいかなかった例などは、出ているんでしょうか。

◎**田村児童家庭課長** 現在のところ、中止となったところは聞いておりません。

◎**金岡委員** 子ども食堂ですが、ボランティアを募集してやっているわけです。先ほど申し上げたとおり、同じ人がやらないかんというように、中山間地域は大変な状況になっておるわけです。十分なフォローをしてもらわないと継続的にできないと思うんですが、そのフォローの部分はどうでしょうか。

◎**田村児童家庭課長** 平成30年度からボランティア養成講座を開催しております、そちらに子ども食堂のスタッフもおいでくださっているんですけど、現在、高知市とか香南市、四万十市で順次実施してきております。ボランティアに関心を持たれている方たちが100名程度参加されていまして、お構いのない方につきましては登録をしていただき、その登録情報を希望のある子ども食堂に提供する支援を行っております。

◎**金岡委員** みんな頑張ってしまうんです。一生懸命やらないかんということで頑張ってしまう。頑張ってしまうと、ひょっとしたらオーバーワークになってしまう状況が見られるので、そこんところを注意していただきたいと思います。それからもう1点、里親あるいはファミリーホームをやっていらっしゃる方は大変なんです。里親支援事業等委託料の中に、それをやっていらっしゃる方へのフォローとかケアとかができるメニューはあるんでしょうか。

◎**田村児童家庭課長** 里親支援事業につきましては、登録前に研修を実施していることと、里親の委託をした後に専門の職員が訪問して、子供の養育についていろいろなケアとか相談を受けたり支援を行っております。

◎**金岡委員** 私の知っているところは私のまだ先輩ですから、子育てについてはプロ中のプロですけども、かなり神経を使うそうです。それで、かなり精神的に疲れるところもあるようです。どこかで息抜きができんかなというところもあるようですので、そこんところはきちんとフォローしていかないと、引き受けていらっしゃる方が潰れてしまうとか何ともならないので、そこんところは注意してやっていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

◎**浜田（英）委員長** 質疑を終わります。

以上で、児童家庭課を終わります。

〈少子対策課〉

◎浜田（英）委員長 次に、少子対策課について行います。

（執行部の説明）

◎浜田（英）委員長 質疑を行います。

◎浜田（豪）委員 少子化対策県民運動推進事業費の県民意識調査委託料ですけど、この県民意識調査は県内全般で調査されたと思うんですが、香南市を見てみますと、多子世帯というか子だくさんの家だらけで、何かことし、目につくぐらいどどん子供が生まれているような気がするんです。しかし、地域福祉部の皆様のお話を聞いていくと、地域間によって全然違う状況なのかなと思ったりするんですけど、県民意識調査を実施して、どんな傾向が見えて、どんなことを考えておられるのか。

◎澤田少子対策課長 県の取り組みの関心度でありますとか、認知度などを計測しておるものでございます。その中におきましては取り組みの認知度が非常に高まっておりますし、例えば少子化対策の取り組みについて重点的に行うべきなのはどういったものであるのかを確認しますと、やっぱり経済的な支援が重要であるということは継続的に見てとれております。

◎浜田（豪）委員 少子化対策も割と幅広いことだと思うんですけど、それこそ地域によって全然事情が違うでしょうから、それを的確に把握していただいて、結局のところ人口減少が一番の課題だと思いますので、この調査をしっかりとつなげていていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

◎金岡委員 いろいろな委託料を組み合わせておりますけれども、その中で何組ぐらいが結婚されたのかわかりますか。

◎澤田少子対策課長 これまで県に結婚の報告をいただいた方になりますけれど、この9月末で200組を超えてまいりました。

◎金岡委員 まああの成果が上がっていると思います。私どもの若いころとは全然違うので、昔の話をしたらいかんとは思いますが、昔はお世話やきの方がいらっしゃって、この人はどうか、あれはどうかということをやられて、すごく成果が上がるとるんです。そういうのは、今はハラスメントみたいな形で見られて、やってはいけないことになっているんですか。

◎澤田少子対策課長 地域に関しましては、価値観の押しつけにならないことに留意しながらの取り組みになっているかと思えます。地域の方に婚活サポーター、ボランティアとしてお世話役になっていただいておりますので、そうした方々を通じて県の事業を周知していただいたり、独身の方のお引き合わせをやっていただいているところでございます。また、私どもの養成講座におきましては、個人情報取り扱いでありますとか、押しつけにならないように、しっかりと情報提供をさせていただいているところでございます。

◎金岡委員 いずれにしても、できるだけマッチングをしていただいて、結婚される方が

ふえるように、よろしくお願ひしたいと思ひます。

◎浜田（英）委員長 質疑を終わります。

以上で、少子対策課を終わります。

〈福祉指導課〉

◎浜田（英）委員長 次に、福祉指導課について行います。

（執行部の説明）

◎浜田（英）委員長 質疑を行います。

（なし）

◎浜田（英）委員長 質疑を終わります。

以上で、福祉指導課を終わります。

これで、地域福祉部を終わります。

以上をもって、本日の日程は全て終了いたしました。次回は、11月7日水曜日に開催し、商工労働部、林業振興・環境部の決算審査を行います。開会時刻は午前10時といたします。これで、本日の委員会を閉会いたします。

（16時51分閉会）